小児看護 12 月号　第 45 巻第 12 号（通巻第 576 号）　2022 年 12 月 15 日発行（毎月 1 回 15 日発行）
ISSN 0386-6289

小児看護 12

THE JAPANESE JOURNAL OF CHILD NURSING, MONTHLY

Vol.45 No.12 DECEMBER
2022

みんなで築こう！
協働関係
日常から話し合える環境に必要なこと

連載

もっと知ろう！障害がある子どもと家族のくらしの支え方
重症心身障害者のエンド・オブ・ライフケア

へるす出版

連載

心が歌えば、世界が揺れる

佐藤聡美 Sato Satomi
聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授

第19回 世界はいろんな人でできている

「ひぇー，またケーキまで食べちゃった」と，有名なムンクの絵である「叫び」に書き添えられている。この上ない，恐怖と後悔にゆがんだ顔である。糖をカットするサプリメントの宣伝のようだ。何気なく目に入った電車の広告に，そう書かれると，そのように見えてしまうのだから面白い。

電車の中で，本のページをめくる。話題はAI大喜利。映画『君の名は』の続編。『また君か』。笑いがこぼれてしまう。

いくつになっても初めてのことを体験すると，世界がプリズムのように色が違って見える。わが子は鉄道が好きすぎる。自分で「乗り鉄」だと名乗っているくらいだ。鉄道の歴史や路線図について質問をしてくるが，私も家人もそこまで詳しく答えられない。そうすると，子どもは私たちに「インターネットで早く調べて」と言う。今どきの子だ。私たちは苦笑いである。

ある日，私はたまたま知った鉄道模型展に子どもを連れて行った。しかし何と，そこは大人の展覧会だったのである。鉄道を心から愛する人たちが，鉄道模型を手作りして，展示したり，レースをしたりと，力作を集結させていた。もちろんプラレールだけでなく，Nゲージ，Lゲージ，Gゲージと多種多様であった。そこでは，皆がわが子の質問に易々と答えていた。子どもは鉄道模型を丹念に見て回り，私も小さくて細やかな世界に引き込まれた。子どもには，大人の友だちがたくさんできた。ある人には，「お母さん，お子さんは本物です」と言われた。奇妙だが，得難い経験である。

青年と成人の小児がん経験者は，国内に2万人ほどいるのではないかと推定されている。私は，できるだけ子どもたちに，世界は学校と病院だけではないことを経験させたいと考えている。友だちも同年代である必要はなく，5歳上の友だちも5歳下の友だちもいていい。

最近は医療も教育も人員不足が指摘されている。一人の有資格者が100人の子どもを見守るより，100人の仲間で支え合うほうが，より長く，より柔軟な対応ができるように感じている。そのため，子どもにとって良き友だちを探し続けることは，親ができるひとつのサポートだと考える。

特に，インターネットでは関係が見えても，関係の質までは見えない。心地よい関係は，実際に関わってみないとわからない。「参加する勇気」「体験する喜び」「達成する自信」。この3つだけは，病気とは関係なく，子ども時代に必須の体験要素だと考えている。がしかし，小難しいことを言わなくとも，子どもの様子を見ていれば答えは明白だ。

佐藤聡美
さとう・さとみ
聖路加国際大学公衆衛生大学院准教授。博士。臨床心理士，公認心理師。NPO法人エゴノキクラブ理事長。富山県出身。米国のBellevue Community Collegeを卒業後，お茶の水女子大学大学院修了。国立成育医療研究センターにおいて小児がんの臨床と研究に携わる。お茶の水女子大学特任講師を経て，現職。著書『看護師と家族でかなえる最高のサポート：子どもの入院から就学・就労まで』。工作好きな一児の母。

©へるす出版